



自衛官募集相談員が部隊を研修



自衛隊東京地方協力本部城東地区隊（隊長 濱田2陸佐）は2月3日、城東地区募集相談員連絡協議会の会員16名に対し、習志野駐屯に所在する第1空挺団及び習志野分屯基地に所在する航空自衛隊第1高射群第1高射隊の研修を実施した。

本研修は募集相談員に対し部隊の活動状況等を紹介して、じ後の募集活動の一助にするとともに、会員相互の情報共有を図り、募集基盤の強化・拡充を目的として企画したものである。

午前中は、第1空挺団広報班から習志野駐屯地及び第1空挺団の概況説明を受けた後、落下傘整備工場において、空挺傘の収納展示及び装着体験、基本訓練場において着地訓練やヘリからの飛び出し訓練の見学、最後に空挺館に展示された各種資料の説明を受けた。

落下傘装着体験では「この重量を背負い行動するには相当な訓練が必要だ」また空挺館での資料説明では「担当者の説明に引き込まれた。習志野駐屯地の歴史がとても良く理解できた」などの感想があった。

午後からは第1高射隊の部隊研修を実施し、概況説明で第1高射隊の編成、昨今の社会情勢に伴う任務、訓練状況等の説明を受けた参加者は改めて高射部隊の重要性について再認識していた。

その後、演習場に移動し装備品PAC-3の説明や発射装置の展示、警備犬の説明を受けた。

見学者からは「テレビで報道され度々見ていたが、実際に間近で見るとやはり迫力があって良い機会だった」等の感想があった。

城東地区隊は今後も募集相談員等に対して部隊見学や各種説明会を実施し、より自衛隊の活動について、理解を深めてもらうとともに、募集対象者情報の獲得に向けて更なる連携態勢の強化を図るように積極的に、採用広報活動を実施していくとしている。

下総航空基地で航空機を見学

自衛隊東京地方協力本部台東出張所（所長 武下3陸佐）は2月18日、自衛隊に対する理解を深めてもらうため、海上自衛隊下総航空基地（千葉県柏市）において部隊見学を実施し、募集対象者18名及びその保護者4名の計22名が参加した。

まず基地の史料室において、下総航空基地の歴史について説明を受け、展示された写真や資料を見学するとともに、国産初の旅客機であるYS11のコックピットの実際のシートに座り操縦手気分を体感した。また、車両整備工場では整備中の大型車や車検整備の様子を見学し、格納庫では護衛艦にも搭載されている哨戒機SH60Jを見学した。参加者は機体を写真撮影したり、隊員から機材等の説明を受けた。

昼食は北海道の郷土料理「鮭のちゃんちゃん焼き」をメインとした体験食が行われ「ポリウムがあり、とても美味しい」等の声が聞かれた。

午後からは管制塔、P3C固定翼機の順に見学し、参加者からは「航空機を誘導する管制官の隊員から生の声を聞くことで親近感を感じた」等の感想があった。

台東出張所では今後も募集対象者、保護者等のニーズを踏まえた各種イベントを部隊等と連携しながら実施して、自衛隊の任務の重要性を広報するとともに、防衛省・自衛隊の活動に対する理解と関心を高め、自衛官募集業務に繋げていくとしている。

